



大川市の花（カンナ）
木（桐）をまちの美しさに

川野栄美子 議員

問 市の花であるカンナ、市の木である桐の美しさを市内に広げるため、これまでと今後の取り組みについて、伺いたい。

答 毎年5月頃に紫色の美しい花を咲かせる桐は、昭和49年に市制20周年を記念し公募により制定された。

平成22年11月には、水処理センターにて大川木材青壮年会と大川市緑化事業推進委員会の合同で、クヌギやカシといったしよに桐の植樹が行われたところであり、今後も桐の木を含めた植樹活動など行っていきたい。

夏から晩秋にかけて赤、白、黄色など多彩な色の花を咲かせるカンナは、昭和54年に市制25周年を記念し、緑のまちづくりの一環として、また、郷土愛の芽を育てる象徴として、公募により制定された。民間の取り組みであるが、平成元年から2年にかけて「カンナの花いっぱい運動」が行われ、市役所周辺のいちよう通り、あおぎり通りの街路樹の根本に球根植えが行われ、いまでもそのカンナの花を見ることができている。

今後のまちづくりにどう生かしていくかは、花を美しく見せるといったソフト面の企画も含め、さまざまな検討をしていきたい。



子どもたちの
教育環境について

平木 一朗 議員

問 いじめ問題の現状と認識について、また不登校児の問題と解決策について、伺いたい。

答 市内小中学校におけるいじめの報告数は、20年度は1件、21年度は8件であり、また、不登校の児童生徒数は過去3年を見てみると、年間26人から28人程度で推移している。

いじめ問題の一番の解決策は、規範意識をどう高めていくかであり、また、いじめや不登校を生まない教育活動の推進が大切である。子どもが明るく生き生きとした学校生活を送るには、いじめ問題を初め、学校の諸問題を子どもたち自身で解決していく力を身につけることが必要である。学級での実践的活動に取り組む中で、子ども一人一人の存在感や連帯感を育てると共に、奉仕体験の取り組みを通して良好な人間関係を構築し、社会性や豊かな情操を培うように指導を進めている。子どもを取り巻く環境や社会的状況は年々悪化する傾向にある。家庭内暴力や家庭放棄、過保護等の家庭問題もあり、今後、更に保護者や地域社会並びに関係機関と連携を密にし、ながら、情報の共有化や行動の連携を行い、信頼される学校づくりと共に家庭の教育力や地域教育力の向上推進を図っていきたい。

議会を傍聴しませんか！

次の市議会定例会は、開会日を3月7日（月）に、
一般質問を3月10日（木）、11日（金）に予定しています。
みなさまの傍聴をお待ちしております。

インターネットによる議会中継も行います。

ホームページアドレス <http://www.okawa-city.stream.jfit.co.jp/>

なお、議会の日程は変更になることもありますので、
詳しくは、議会事務局までお問い合わせください。（TEL 85-5622 直通）